（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援みつける			
○保護者評価実施期間	令和7年8月1日	～	令和7年8月31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	41	（回答者数）	41
○従業者評価実施期間	令和7年8月1日	～	令和7年8月31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025/10/28			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スタッフは保護者とのコミュニケーションを大切にしており、連絡帳やSNS、口頭での情報共有を通して、子どもたちの様子や活動内容をタイムリーに伝えている。 土曜日の親子での活動や「みつけるだより」などを通じて、保護者同士の交流や学びの機会も提供されている。こうした取り組みにより、親子ともに支援を受けやすく、スタッフとの信頼関係が築かれやすい環境が整っている。 日々の活動や相談の中で、保護者が安心して意見や質問を伝えられる雰囲気があり、子どもも心を開いて過ごすことができている。	連絡帳、SNS、口頭など複数の方法で日々の活動や子どもの様子を共有。 活動の様子や支援の意図を保護者に分かりやすく説明。 土曜日の親子での活動で、子どもの様子を共有・相談できる場を提供。 保護者同士の交流や学びの機会も同時に提供。 子どもの日々の変化に応じた支援やアドバイス。 保護者が気軽に相談できる雰囲気作り。	規約やマニュアルをLINEやHPで保護者に整理して配信。 活動報告を動画や写真付きでタイムリーに提供。 土曜以外の平日や祝日にも親子参加型イベントを設定。 保護者同士の交流会や相談会を定期的に実施。 個別面談を定期的に設定。 家庭での支援の工夫やアドバイスをより具体的に提供。
2	子ども一人ひとりの心身や発達全般に丁寧に向き合い、感覚遊びや運動、散歩、クッキングなど、家庭では経験できない多様な活動を提供している。 年間を通して短期・長期の目標を設定し、成長に応じて計画を柔軟に調整することで、子どもたちの自信や好奇心を育み、学びの楽しさを実感させている。 繰り返しの活動と新しい挑戦をバランスよく取り入れることで、子どもたちは安心しながらも自分の力で考え、行動できる力を伸ばすことができている。	感覚遊び、運動、散歩、クッキングなど、家庭では経験しにくい活動を取り入れる。 他施設での活動や異年齢交流で、刺激や学びの幅を広げる。 年間を通して短期・長期目標を設定し、子どもの成長に合わせて柔軟に調整。 活動の終わりに課題や良いところを共有し、子どもの自信につなげる。 定期的な活動で安心感を与えつつ、新しい体験で好奇心を刺激。	季節や行事に応じた新しいプログラムの追加（例：自然体験、地域交流イベント）。 家庭では経験できない体験の幅を広げ、感覚遊びや運動などをより発展的に。 活動記録や成長の様子を写真や動画で可視化し、保護者と共有。 短期・長期目標に沿った個別の支援計画を定期的に更新。 きょうだい支援や異年齢交流の機会を増やす。 子ども一人ひとりの特性に合わせた新しい挑戦の機会を提供。
3	室内・屋外ともに十分なスペースが確保されており、子どもたちは思いきり身体を動かしたり、多様な活動に挑戦することができる。 自由遊びと活動の部屋が分かれているため、子どもたちは活動の切り替えがしやすく、集中して遊びや学びに取り組むことができる。また、少人数体制で職員の目が行き届くため、個々の子どもへのきめ細やかな配慮が可能。 避難訓練やAEDの設置など安全面にも十分に配慮されており、保護者は安心して子どもを預けることができる信頼できる環境が整っている。	一人ひとりに目が届くよう、子どもと職員の比率を工夫。 10人での活動の日は、公民館や体育館を使うなど活動内容やスペースを柔軟に調整。 自由遊びと活動の部屋を分け、子どもが切り替えやすく集中しやすい配置。 机や遊具を出し入れできるようにして、広いスペースを確保。 定期的な避難訓練の実施。 AED設置や安全マニュアルの整備、事故時の細やかな報告。	10人での活動の日は、近隣の公民館や他施設の利用計画を事前に用意。 机や遊具の可動式配置をさらに工夫し、広いスペースの確保を簡単にする。 安全管理のさらなる強化 小さな事故やケガの対応マニュアルを保護者にも共有。 AEDや防災設備の定期点検や訓練頻度の増加。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	一部の活動スペースは大人数の場合に狭く感じることがある。また、古民家を活用しているためバリアフリー化には限界があり、段差や通路の狭さなど物理的な制約がある。一部トイレと活動スペースが重なる場合があり、活動の快適さに影響することがある。	古民家を活用しているため、バリアフリー化や広いスペース確保が難しい。 段差や狭い通路、限られた室内面積が活動に影響する。 人数が多い時にスペース不足を感じやすい。 フレキシブルな広さ確保や別施設の活用が必要になる場合がある。	大人数の日には、公民館や他施設を活用して広いスペースを確保。 机や遊具の可動式配置をさらに工夫し、簡単に広い活動スペースを作れるようにする。 トイレ介助の際に玄関から見えることがあるために目隠しパーテーション等を配置しプライバシーを確保。小便器やおまるの位置を見直し子どもが安心して使用できる動線と空間づくりを行う。 子どもが快適に活動できる環境づくりを優先。
2	きょうだいへの支援や、事業所外での他の子どもとの交流の機会が十分ではない場合がある。家庭では経験しにくい活動や多様な体験は提供されているものの、支援の幅や交流の機会をさらに広げる余地がある。	日常の支援計画では主に通所児童個々への支援に重点を置いており、きょうだいへの関わりや他施設児童との交流は限定的。 他施設や家庭との調整、スケジュール上の制約が背景にある。 スタッフや設備の制約で、全ての新しい活動を実施するのは難しい場合がある。 子ども一人ひとりに合わせた個別支援の幅を広げるには時間・人員・設備面での工夫が必要。	きょうだい向けプログラムや一緒に参加できる活動を企画。 他施設や地域の子どもとの交流会を設け、多様な社会経験の機会を提供。 子ども一人ひとりの特性や発達段階に応じた個別プログラムを増やす。 新しい体験や挑戦の機会を計画的に組み込む。 季節や行事に合わせたプログラムの追加や発展的な活動の導入。 家庭では経験できない活動（自然体験・地域交流など）を取り入れる。
3	規約やマニュアルの周知が一部で十分ではなく、保護者が必要な情報にアクセスしにくい。また、親子参加イベントは土曜日で、平日や祝日などしか参加できない家庭にとっては参加しづらい場合がある。	日々の運営や研修でスタッフ間の情報共有は行われているが、保護者への周知方法が統一されていない。 保護者が必要な情報にタイムリーにアクセスできないことがある。 親子参加イベントは土曜日中心で、平日や祝日参加が難しい家庭もある。 スケジュールやスタッフ配置上、全家庭が均等に参加できる仕組み作りが課題。	規約やマニュアルをLINEやHPで整理して配信。 活動報告を写真や動画で分かりやすく提供。 平日にも親子参加型イベントを設定し、参加のハードルを下げる。 保護者同士の交流会や相談会の定期的開催。 個別面談を定期的に実施。 家庭での支援やアドバイスを具体的に伝え、親子の支援力向上につなげる。